



# JSBMR Newsletter No. 15

日本骨代謝学会／The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町 2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

## 第 28 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2010年7月21日(水)～7月23日(金)  
会 場: 京王プラザホテル  
会 長: 国際医療福祉大学 教授、山王メディカルセンター・  
女性医療センター長 太田 博明  
参加費: 12,000円(大学院生 5,000円・・・学生証の提示が必要です)  
ホームページ: <http://jsbmr28.umin.jp/>

## ～～～～～～～～～～ 2010年度の各賞が決定しました ～～～～～～～～～

6月に行われた選考委員会・理事会において、2010年度の各賞が下記のように決定いたしました。

- 【学会賞】 該当者なし
- 【学術賞】
- <内科系> 小竹 茂 (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター)
  - <内科系> 伊木 雅之 (近畿大学医学部公衆衛生学講座)
  - <外科系> 秋山 治彦 (京都大学医学部整形外科学講座)
- 【研究奨励賞】
- <基礎系> 今井 祐記 (東京大学分子細胞生物学研究所)
- 【優秀演題賞】
- <基礎系> 近藤 剛史 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)
  - 宮内 知彦 (昭和大学歯学部口腔生化学教室)
  - <臨床系> 齋藤 琢 (東京大学医学部ティッシュエンジニアリング部)
  - 谷口 優樹 (東京大学医学部整形外科)
- 【JBMM 論文賞】 平尾 眞 (大阪大学医学部整形外科)

※7月22日(木)13時00分より、総会に引き続いて表彰式および受賞講演が執り行われる予定です。

## ～～～～～～～～～～ JBMM 誌インパクト・ファクター発表 ～～～～～～～～～

2010年6月に発表された日本骨代謝学会英文誌「Journal of Bone and Mineral Metabolism」のインパクト・ファクターが、**1.894** となりました！

# 2009 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2009 年 10 月～2010 年 3 月末)

## ■2009 年度 第 4 回理事会議事録■

日 時: 2009 年 10 月 16 日(金) 15 時 00 分～17 時 30 分

会 場: 千里ライフサイエンスセンター 6 階 601 会議室

議 事:

2009 年度第 2、3 回理事会議事録(案)の承認(米田理事長)  
2009 年度第 2、3 回理事会議事録(案)について内容を確認の  
うえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、伊東理事、  
加藤理事が担当することとした。

<報告事項>

### 第 29 回日本骨代謝学会準備状況について

(大藪第 29 回会長)

大藪会長より、第 29 回学術集会の準備状況について 2011 年  
7 月 28 日(木)～30 日(土)に大阪国際会議場にて開催予定で  
ある旨、報告があった。

### 第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライト シンポジウムについて(大藪会長)

大藪会長より、第 14 回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨  
代謝サテライトシンポジウムについて 2010 年 3 月 31 日に大阪  
国際会議場 12 階特別会議場にて開催予定である旨、報告が  
あった。また講演者、座長について紹介があり、シンポジウム  
終了後に懇親会を予定している旨、補足説明があった。

### 1. 庶務報告(山口理事)

山口理事より、2009 年 9 月 30 日時点での会員数および会費  
納入状況について報告があり、了承した。なお、プロクター・ア  
ンド・ギャンブル・ジャパン株式会社医薬事業部より、事業部  
撤退のため退会届があった旨、報告があった。なお、学生会  
員が所属大学を卒業した時に、正会員への変更の届け出をし  
ないまま学生会員を継続する可能性がある問題について協議し  
た。

### 2. 会計中間報告(水沼理事)

水沼理事より、2009 年 9 月 30 日時点での会計中間報告があ  
り、承認した。

### 3. 各種委員会報告

#### 1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、第 28 回学術集会の若手シンポジウム企  
画(案)について提示があり、了承した。また、委員の再編  
成も検討している旨、報告があった。

また、本会の社会貢献活動として、片桐岳信委員長が中心と  
なり運営している FOP 患者さんを対象とした講演会につい  
て、本会が後援してはどうかとの提案があり、承認した。

#### 2) 国際渉外委員会(米田理事長)

米田理事長より、ANZBMS より、2011 年 9 月 2 日～5 日の大  
会を本会と合同開催にする旨、報告があった。

#### 3) 臨床プログラム推進委員会(杉本理事長)

杉本理事長より、下記 6 つの臨床研究テーマについて活動  
状況の報告があり、委員会報告として、ホームページへ掲載  
する旨、報告があった。また、1 および 2 については、第 28  
回学術集会ミニシンポジウムに採択された旨、報告があっ  
た。

- 1.成人における血清 25(OH)D 基準値設定の検討(岡崎亮  
委員)
- 2.小児における血清 25(OH)D 基準値設定の検討(大藪恵  
一委員)
- 3.骨軟化症の診断マニュアルの検討(福本誠二委員)
- 4.関節疾患における軟骨代謝マーカーの有用性の検討  
(宗圓 聡委員)
- 5.妊娠と骨代謝の検討(水沼英樹委員)
- 6.運動と骨代謝の検討(萩野浩委員)

#### 4) 広報委員会(米田理事長(萩野委員長代理))

米田理事長より、前回広報委員会で提案のあった、学会  
紹介のスライド(案)について提示があり、一部修正の上、  
承認した。本スライドについては、理事がそれぞれ関連学  
会で講演などを行う際の発表資料に追加し、宣伝を行うこ  
ととした。

#### 5) ビスフォスフォネート製剤顎骨壊死検討委員会(米田理事 長)

米田理事長より、本委員会でまとめた Position Paper につ  
いて、現在英訳が完了し、JBMM 投稿に向けて校閲中であ  
る旨、報告があった。

#### 6) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(宗圓理事 (名和田委員長代理))

宗圓理事より、第 27 回学術集会期間中に、第 1 回委員会  
を開催し、2004 年度ガイドラインを発行後のステロイド性  
骨粗鬆症の管理と治療のエビデンスについて、主に以下  
の問題について協議した旨、報告があった。

- ・GOJAS Study
  - ・大腿骨近位部の骨密度測定の有用性と骨粗鬆症治療  
薬の効果
  - ・小児ステロイド骨粗鬆症
  - ・FRAX について
- また、改訂における方向性と委員の担当分野を決定し、  
2010 年 3 月 20 日に第 2 回委員会を開催する旨、報告が  
あった。

## 7) 椎体骨折評価委員会(宗圓理事)

宗圓理事より、10月15日に第2回委員会が開催された旨、主に以下の報告があった。

- ・椎体骨折の判定そのものについて、MRIの考え方を導入する。加藤委員、中野委員を中心に原案を作成する。
- ・現在の計測法が日常診療の中で使用されていないため、SQ法を評価基準として取り入れることを検討している。その際に、現在の骨粗鬆症の診断基準との整合性について確認する必要がある。

協議した結果、現在の診断基準が国際的な基準からかけ離れることが無いように、同委員会で診断基準を更新することについては、了承することとした。

## 8) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(米田理事長(遠藤委員長代理))

米田理事長より、同日午前名古屋国際会議場にて委員会が開催された旨の報告があった。

## 4. 第28日本骨代謝学会報告(太田会長)

第28回プログラム委員会にて報告

## 5. IBMS 2013 開催について(野田会長)

野田会長より、IBMS 2013の日程、会場について、2013年5月28日～6月1日に、神戸国際会議場およびポートピアホテルにて開催する旨、サーキュラーをもとに報告があった。また、各種委員会編成(案)の提示があり、承認した。また、日本整形外科学会や、癌と骨病変研究会など関連学会へサーキュラーを配布し宣伝する旨、了承した。

## 6. 学会誌掲載論文の転載許可について(米田理事長)

米田理事長より、「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載依頼があった旨、報告があり、承認した。

## 7. その他

松本副理事長より、ECTSのInternational medical Advisory Boardに出席した旨報告があり、骨粗鬆症関係の新薬が殆ど承認されていないことから予想される賛助会員の減少をふまえ、学会の生き残り策について将来を踏まえた議論を行った旨、説明があった。本会においても、会員数の減少や賛助会員の撤退など右肩下がり現状と向き合い、早めに対策を講じる必要がある旨、提案があり、了承した。

## &lt;審議事項&gt;

## 1. BMP研究会について(米田理事長)

米田理事長より、須田立雄名誉会員より、これまで独立して開催されてきたBMP研究会を第28回学術集会から学術集会プログラムにシンポジウム(120分)、あるいはミニシンポジウム(90分)として組み込んでほしいとの依頼があった旨、報告があった。協議した結果、前例がないことや、本件を承諾することにより他の研究会からも同様な依頼があった場合の対応につい

てさらに難しくなることから、学会として継続的に本研究会をプログラムに組み込むことは難しいとの意見が多く、辞退することとした。

## 2. 「BoneKEY Newsletter について」(松本副理事長)

松本副理事長より、BoneKEY Newsletterの紹介があり、BoneKEYサイトへのアクセスと登録を促進するため、IBMS本部より同Newsletterを、会員へ直接配信したいとの依頼があった旨、報告があった。協議した結果、配信原稿を事務局へ送信していただき、事務局から会員へ配信することとした。

## ■2009年度第5回理事会議事録■

日時: 2010年3月13日(土) 15時00分～17時30分  
会場: 千里ライフサイエンスセンター 6階 603会議室  
議事:

2009年度第4回理事会議事録(案)の承認(米田理事長)  
2009年度第4回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、杉本理事、田中理事が担当することとした。

## &lt;報告事項&gt;

## 1. 庶務報告(山口理事)

山口理事より、2010年2月28日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。なお、年会費長期未納者について提示があり、関係の滞納者へ督促する旨、了承した。

## 2. 会計中間報告(杉本理事)

杉本理事より、2010年1月31日時点での会計中間報告があり、承認した。なお、第27回学術集会事務局より、剰余金3,093,754円の上納があった旨の報告があった。

## 3. 各種委員会報告

## 1) あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より、第28回学術集会の若手シンポジウム企画最終(案)について提示があり、了承した。

## 2) 国際渉外委員会(福本委員長)

福本委員長より、本理事会の直前に委員会を開催した旨、主に以下の報告があった。

- ・2011年9月4日～7日にANZBMS-JSBMR Joint Meeting in 2011がGold Coastで開催される予定である。
- ・ANZBMS-JSBMR Joint Meeting in 2011において、先回と同様にTravel Awardを設け、学術集会の応募演題より選考する予定である。Awardは1名あたり15万円程度、受賞者数は約25名を予定している。
- ・2009年のシドニーのIBMS-ANZBMSで開催したAsianセッションが好評であったことを受け、次回ギリシャでのIBMSでもAsian Sessionを開催することとした。なお、次々回の

IBMS2013 開催時には ABMS(Asian Bone Mineral Society) の組織固めを行い、大きいセッションを計画することとした。なお、ECTSより International Affiliated Society への参画依頼があった旨、報告があり、承認した。

### 3) JBMM 編集委員会(清野委員長)

清野委員長より、JBMM の投稿状況、発行状況等について、主に以下の報告があった。

- ・採択率は、3月2日現在で、2009年投稿論文:30.7%、2008年度:38.6%、2007年度:48.5%となっている。
- ・2009年国別投稿状況について、日本からの投稿は26.4%となっている。
- ・福永仁夫先生より、Associate Editor 辞退の申し出と、後任の曾根照喜先生の推薦があり、承認した。
- ・投稿規程に Conflict of Interest の記載を追加する予定である。
- ・投稿者の査読希望者について、希望者は受け入れないこととし、除外してほしい査読者については考慮することとした。
- ・Gregory Mundy 先生ご逝去に際し、Condolence を掲載する予定である。

### 4) 臨床プログラム推進委員会(杉本委員長)

杉本委員長より、成人における血清25(OH)D基準値設定が間もなく公開される旨、報告があった。また、骨軟化症についても学術集会でミニシンポジウムに取り上げてはどうかとの提案があり、了承した。

### 5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(太田監事)

太田監事より、2000年度版の妥当性検証の論文が JBMM へ掲載された旨の報告があり、別刷の配布があった。今後の活動としては、当初の目標である短縮版作成に向けて、データ採取、集計・解析および検証を行う旨、説明があった。

### 6) 骨密度基準値設定委員会:報告事項なし

### 7) 広報委員会(米田理事長)

米田理事長より、広報委員会報告として、ホームページの一般の方向けのページの作成、ならびに会員専用ページの導入について提案があり、了承した。また、会員専用ページでは JBMM へのフリーアクセスが可能になれば利便性が高くなる旨の意見があり、検討することとした。

### 8) BP 製剤関連顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田理事長より、同委員会でもとめた論文が JBMM に掲載されることとなった旨、報告があった。なお、和文簡略版を別途作成し、賛助企業各社へ1部50部で頒布する旨の案内を配布した旨、報告があった。また、同論文の和文完全版の独立出版も進めたいとの提案があり、了承した。

### 9) 椎体骨折評価委員会(伊東理事)

伊東理事より、3月6日に第3回委員会を開催し、MRIで可能な椎体骨折の鑑別診断および SQ 法による評価について協議した旨の報告があった。

### 10) ステロイド性骨粗鬆症管理と治療のガイドライン改訂委員会:報告事項なし

### 4. 第28回日本骨代謝学会準備状況について(太田第28回会長)

太田会長より、第28回学術集会の日程およびプログラム(案)について、資料に基づき、説明があった。なお、抄録や発表の英語化を導入してはどうかとの提案があり、協議した結果、シンポジウムから始めるのがよいのではという意見があり、海外会員の増加策と合わせて、あり方委員会で詳細を検討することとした。

### 5. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライトシンポジウムについて(米田理事長)

米田理事長より、第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライトシンポジウムについて、資料に基づき、プログラムの紹介があった。

### 6. 学会誌掲載論文の転載許可について(米田理事長)

米田理事長より、前回理事会終了後に依頼のあった「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載依頼2件、ならびにステロイドガイドライン(JBMM Vol.23-2)の転載依頼2件について報告があり、承認した。

杉本理事より、日本骨粗鬆症学会、ならびに骨粗鬆症財団との合同で作成した骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2006年度版を改訂する運びとなった旨の報告があり、本会からの策定委員として、杉本理事、宗園理事、および萩野理事が就任する旨、了承した。

### < 審議事項 >

#### 1. 新評議員の推薦について(米田理事長)

杉本理事、太田監事より、齋藤充先生の評議員推薦があり、全会一致で承認した。

#### 2. 2010年度各賞選考スケジュールおよび審査について(米田理事長)

米田理事長より、2010年度の学会賞、学術賞、研究奨励賞、優秀演題賞、JBMM論文賞の選考スケジュール(案)の提示があり、承認した。

#### 3. ステロイドガイドライン等の著作権料(転載使用料)について(米田理事長)

米田理事長より、ステロイドガイドラインの著作権料について日本骨粗鬆症学会事務局から検討の依頼があった旨の報告があり、対応について協議した結果、特別に1部当たり10円とする

こととし、スポンサー企業より直接本会へ連絡していただくよう、依頼することとした。なお、本ガイドラインについては、発行後5年が経過したため、今後の転載料としては、1部当たり10円とする旨、確認した。

4. 学会寄付募集について(米田理事長)

松本副理事長より、ASBMR 等海外の学会にならい会費納入の際に寄付を募集してはどうかとの提案があった。協議した結果、寄付そのものがキリスト教圏独自の文化であることから、多少違和感があることと、税務上の問題を考慮し、見送ることとした。

5. Gregory Mundy 先生の Memorial Fund について(米田理事長)

米田理事長より、Gregory Mundy 先生のご逝去に際し、過去の慣例にならい、1,000 ドルの寄付を行いたい旨の提案があり、承認した。

6. その他

加藤理事より、あり方委員会に企業出身者の会員を追加し、産学連携を通して会員増加と活性化を進めたいとの提案があった。協議した結果、各企業の利益を除外して携わることとを条件として承認した。

企業出身の委員の選出方法については、賛助会員各社へ公募を募ってはどうかとの提案があった。

■ 第 28 回 JBMM 編集委員会議事録 ■

日時: 2010年3月13日(土)14:15~15:00  
場所: 千里ライフサイエンスセンタービル 6階 603

清野佳紀委員長が資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

1. 投稿状況
 

2010年3月2日現在、44編の投稿があり、昨年より掲載論文が3割強増加している。2009年では日本が26.1%でトップ、次に中国が17.4%、USAが9.5%の投稿があった。地域別では日本を含むオセアニア 53%、EU 21.5%、北米 10.5%、中近東 8%、南米 4%、アフリカ 3%である。

2009年度学術集會に招聘した Dr.Lynda Bonewald、Dr.David G.Roodman、学術賞受賞論文、鄭 雄一 先生、伊東昌子先生はレビュー執筆予定である。2007年以前の受賞記念誌執筆論文は時間が経過すぎたので、本人が執筆意思を示している以外は失効することとする。
2. 発行準備状況
 

28巻2号を3月に予定どおり発行し、3月16日(火)に発送した。28巻3号以降掲載論文は47論文が決定しており、オンライン出版後、順次、掲載する予定である。

Associate editor 交替の件

福永編集委員より Associate Editor 交代の申し出があった。福永先生より推薦された曾根照喜先生(川崎医科大学核医学講座教授)を後任として審議し、決定した。この後の理事会で承認されるよう議題とする。

3. 転載許諾について
 

JBMMに掲載した Perspectives (著者:米田理事長、他)より抜粋して、和文ハンドブックを制作することについて、シュプリンガー・ジャパンへ転載許可の問い合わせをした。ガイドラインについては日本骨代謝学会が著作権を管理しており、今回問い合わせした論文もこれに該当するので、日本骨代謝学会が許諾することになる。
4. JBMM 誌へ掲載する表記および投稿規程記載について (COI、見出し)
 

投稿規程にある見出しについて、Introduction, Material and methods, Results, Discussion に統一することを確認した。Conflict of Interest を投稿規程に記載することとし、米田編集委員に原案を作成するよう依頼した。
5. レフェリー除外およびレフェリー指定について
 

レフェリーは Associate editor が適任者を選ぶこととする。著者が指定してきたレフェリーについては特に配慮しないが、Associate editor が適任と考え、依頼しても構わない。競合研究者をレフェリーとすることを避けたいという著者からの申し出については、Associate editor レフェリー依頼時に考慮することとする。そのため、Editorial manager に opposed 機能を付加することとした。opposed 機能は view submission を開いて1ページ目に記載される。
6. プロモーションについて
 

シュプリンガー・ジャパンより昨年および本年の計画を示された。

なお、IOF Regionals - 1st Asia-Pacific Osteoporosis Meeting Singapore, 2010の会議広告を掲載するならば、本誌のプロモーションを会議開催時に行ってもらえる。協議の結果、会告を掲載することとした。
7. その他
 

Dr. Gregory Mundy の Condolence を米田理事長が執筆することとなった。

編集委員会事務局が4月1日付で移動し、それに伴い担当が五郎大さん(アポプラスステーション)より中倉さん(アカデミックスクエア)になる。

今後の学会予定

- 第 29 回日本骨代謝学会  
会 期: 2011年7月28日(木)~30日(土)  
会 場: 大阪国際会議場  
会 長: 大 藪 恵一(大阪大学大学院医学系研究科小児科学)

関連学会の大会開催予定

●第7回 Bone Biology Forum

会期: 2010年8月20日13時(金)~21日15時(予定)(土)  
 会場: 富士教育研修所  
 (〒410-1105 静岡県裾野市下和田 656)  
 ※東海道新幹線 三島駅下車 バスにて40分  
 招聘演者(敬称略):  
 Ego Seeman, Zena Werb, Toshio Hirao, Lonard Freedman  
 参加費(宿泊費が含まれます):  
 一般 10,000円、学生 3,000円、企業 30,000円  
 申し込み: <http://www.bone-biology.com>

●第4回 骨・軟骨フロンティア(BCF)

The 4th Meeting of Bone and Cartilage Frontier  
 会期: 2010年11月20日(土) 13:00~18:30(予定)  
 会場: ベルサール八重洲 2階Room1, 2, 3(予定)  
 東京都中央区八重洲1-3-7  
 八重洲ファーストフィナンシャルビル3F  
 (東京駅八重洲北口徒歩3分)  
[http://www.bellesalle.co.jp/bs\\_yaesu/](http://www.bellesalle.co.jp/bs_yaesu/)  
 代表世話人: 米田俊之(大阪大学)  
 監事世話人: 松本俊夫(徳島大学)  
 山口 朗(東京医科歯科大学)  
 世話人・監事(50音順):  
 秋山治彦(京都大学)、今村健志(癌研究所)、  
 加藤茂明(東京大学)、小守壽文(長崎大学)、  
 高柳 広(東京医科歯科大学)、田中 栄(東京大学)、

●第13回癌と骨病変研究会

開催日: 平成22年11月19日(金)  
 開催場所: 千代田放送会館(東京都千代田区紀尾井町1-1)  
 参加費: 5000円  
 ●ランチョンセミナー(共催: ノバルティス ファーマ株式会社)  
 ●特別講演(共催: アストラゼネカ株式会社)  
 ●指定演題

妻木範行(大阪大学)、西村理行(大阪大学)、  
 福本誠二(東京大学)、松尾光一(慶應義塾大学)

予定演者:

特別講演

Thomas A. Einhorn (Boston University Medical Center)

神谷宣広 (Texas Scottish Rite Hospital for Children)

一般演題

未定(骨・軟骨領域の基礎研究者を6~7名を予定)

共催: 骨・軟骨フロンティア/旭化成ファーマ株式会社

事務局/お問合せ先:

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

口腔病理学分野 担当: 田中 ゆみ

FAX: 03-5803-0188

E-mail: [bc\\_frontier@mail.goo.ne.jp](mailto:bc_frontier@mail.goo.ne.jp)

●第32回アメリカ骨代謝学会

The 32st Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research

会期: 2010年10月15日(金)~10月19日(火)

会場: Metro Toronto Convention Centre

(South Building, Toronto, ON)

大会HP: <http://www.asbmr.org/Meetings/AnnualMeeting.aspx>

●IOF Regionals-1st Asia-Pacific Osteoporosis Meeting

会期: 2010年12月10日(金)~12月13日(月)

会場: Raffles City Convention Centre

大会HP: <http://www.iofbonehealth.org/singapore-2010>

事務局: (株)グラフィティ内

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-20-2 ベル赤坂 1階

TEL: 03-3583-1745 FAX: 03-3583-1741

E-mail: [jscbd@graffiti97.co.jp](mailto:jscbd@graffiti97.co.jp)

落合 淳志	(独)国立がん研究センター 東病院臨床開発センター 臨床腫瘍病理部	前立腺がんの骨転移(仮題)
小沼 悦郎	中外製薬株式会社 育薬研究部	癌悪液質とPTHrP
後東 久嗣	徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 呼吸器・膠原病内科学分野	肺癌の骨転移形成における性差のメカニズム
高橋 俊二	(財)癌研究会有明病院 化学療法科/ (財)癌研究会癌化学療法センター 臨床研究部	乳癌骨転移の臨床
田中 宗一	大阪大学大学院 歯学研究科生化学教室	ゾレドロン酸は乳がん細胞の骨髄から肺への二次転移を抑制する
中野綾子	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 生体情報内科学	骨病変部微小環境は Pim-2 の発現誘導を介し骨髄腫細胞の生存を促進する
西岡 安彦	徳島大学 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 呼吸器・膠原病内科学分野	骨微小環境での EGF 受容体を標的とした肺癌の骨転移制御の検討
三木 義男	(財)癌研究会癌研究所 遺伝子診断研究部	乳がん転移症例の網羅的遺伝子解析
三森 功士	九州大学生体防御医学研究所 外科	乳癌の骨髄微小転移の分子診断法と臨床的意義
森田 祥弘	大阪大学大学院 歯学研究科生化学教室	TGFβ 標的遺伝子 NEDD99 は新規の乳がん骨転移制御分子である

「一般演題募集中」研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd> よりご応募いただけます。多数のご応募お待ちしております。

## ●10th International Conference Cancer-Induced Bone Disease

### REGISTRATION FEES

In these difficult financial times we all have to make choices about which meetings we will attend and with this in mind we have deliberately kept the registration fee low. The early bird registration fee is available until 2nd July, and is just £300 for full fee payers, or £200 for students and others in training/allied health professionals. These fees include daytime refreshments and evening social events, and with good accommodation at low prices in Sheffield you can attend an outstanding meeting at reasonable expense.

Included in the registration fee:

- Attendance at all scientific sessions and commercial exhibition
- Programme and abstract book
- All refreshment breaks, including lunch
- Welcome Reception
- Cultural Event
- Conference Dinner

**There are a number of grants and awards on offer for junior authors:**

### NEW INVESTIGATOR AWARDS

The Cancer and Bone Society will provide New Investigator Awards for the top scoring abstracts.

### TRAVEL GRANTS

The Cancer and Bone Society will provide a number of Travel Grants, and in addition to this the European Calcified Tissue Society and International Bone and Mineral Society have also generously offered to provide a number Travel Grants to eligible authors. As with the New Investigator Awards, the Travel Grants will be awarded according to abstract score.

### ORAL COMMUNICATION AND POSTER AWARDS

Orals and posters from eligible authors will be judged for prizes at the meeting.

In order to qualify for eligibility for an award you must either be aged 35 or under, or you must be less than three years after attaining your postgraduate degree, or you must be a physician in training. Details are on the abstract form.

HP: <http://www.cancerandbonesociety.org/Meetings/10thCIBDMeeting/tabid/105/Default.aspx>

## IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に一度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

また、2013 年には、日本骨代謝学会との Joint Meeting が開催される予定です。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、  
ご覧ください。

日本骨代謝学会は、運動器の 10 年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動